

## 大容量電力短絡試験設備－保護遮断器の更新

### 【設置目的】

大容量電力短絡試験設備は電気事業からの要請による電力流通設備の短絡試験研究や所内研究の推進に確実に対応するため、適切な維持・更新を図る必要がある。昭和38年に設置後、未更新で劣化が顕著となった発電機監視制御盤、投入開閉器、発電機相分離母線および屋外断路器等を中心に平成20年度から順次更新を進めている。平成20年度には「発電機システムの更新・増強」として発電機監視制御盤の更新などを実施し、平成21年度は「保護遮断器の更新」を実施した。

### 【概要・特徴】

短絡電流を遮断する保護遮断器を更新した。

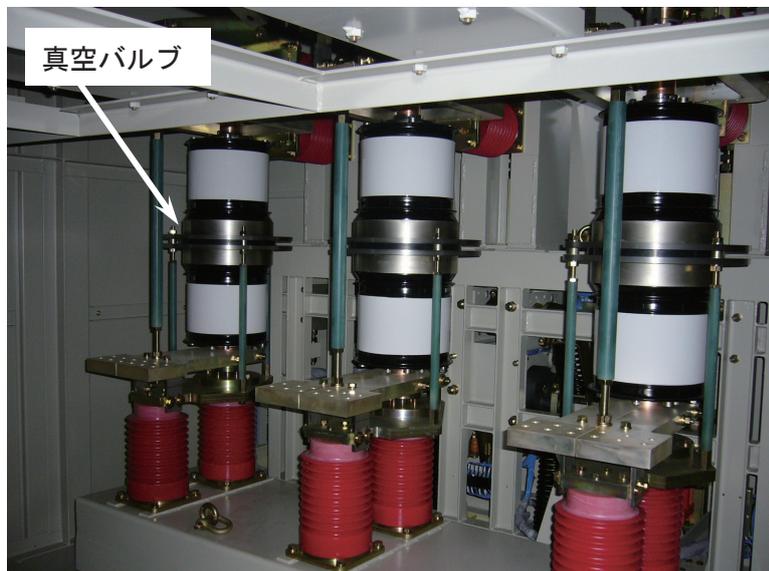
### 【主な仕様】

保護遮断器

- 定格電圧：15.75kV
- 定格周波数：50Hz / 60Hz
- 定格電流：300A
- 定格遮断電流：100kA rms
- 定格投入電流（波高値）：250kA

### 【設置場所・時期】

横須賀地区、平成22年3月



保護遮断器本体（矢印部：各相の真空バルブ）